

障害の有無を超えた表現者による写真展

Shinya Ichikawa

市川信也

Masayo Osawa

大澤昌代

Hidekazu Konishi+Daredemo Camera Club

小西秀和+だれでもカメラ部

Akiyoshi Miyake

三宅章介

Yu Yamaguchi

山口優

壁をのぞく
眼差しむ

Eyes on the wall

Photography exhibition by artists with and without disabilities

2024.2.3 [SAT] - 2.11 [SUN]

12:00 - 18:00

休廊日: 2月8日 [THU]

主催: 一般社団法人ヴァリアスコネクションズ

後援: 京都市、京都市教育委員会、京都新聞社会福祉事業団、京都府社会福祉協議会

助成: 一般社団法人芳心会



GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

壁をのぞむ眼差し 一障害の有無を超えた表現者たちによる写真展一

Eyes on the Wall: Photography exhibition by artists with and without disabilities

私たちは、社会や他者との間に「壁」を感じることがあります。その「壁」が高ければ高いほど、生きづらさを感じたり、苦しんだり……。一方で、「壁」は自分たちを守ったり、居心地の良い空間をも作り出したりします。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、これまでの「壁」を大きく容容させました。このように、「壁」に対する捉え方は、それぞれの人や置かれている状況によってさまざまです。写真を通して、見えない「壁」やその向こう側・こちら側を、意識的あるいは無意識的に写し出している、障害の有無を超えた表現者たちによる写真展「壁をのぞむ眼差し」を開催します。

向こう側とこちら側を作り出す「壁」。それぞれの表現者による多様な「壁をのぞむ眼差し」から、どのような物語や問いが紡ぎ出されるのでしょうか。

Sometimes we feel there is a wall between ourselves and society or others. The higher the wall, the harder it is to live and the more we suffer.

On the other hand, walls can also protect us and are used to create safe and comfortable spaces. COVID-19 has also transformed these walls to a great extent. As you can imagine, the perception of walls vary widely depending on who is facing them and in what environment.

"Eyes on the Wall" is an exhibition of photographs by artists with and without disabilities who have captured these invisible walls, either consciously or unconsciously, and what stands on either side of them.

Walls — they are what create "this side" and "the other side."

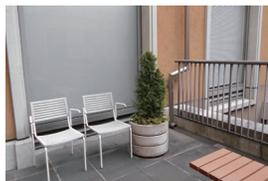
What stories and questions will be woven together by these artists? Keep your eyes on the wall and find out.



《仮面の告白》1997

市川信也 Shinya Ichikawa

1959年京都市生まれ。1989年富山医科薬科大学(現・富山大学)医学部卒。1997年～1999年パリ第5大学表現研究センターアシスタント。写真家、精神保健指定医、京都写真クラブ代表。臨床の傍ら白黒フィルムでの作品制作を続けている。国内外での個展(銀座ニコンサロンほか)、グループ展(「PHOTOSYNYKRIA」テッサロニキ写真美術館/ギリシアほか)、受賞多数。ノールバドカラー写真センター(フランス)、フランス国立図書館に収蔵。



《双子の椅子》2019

大澤昌代 Masayo Osawa

1976年京都市生まれ。2019年から「だれでもカメラ部」に所属。2020年「きょうと障害者文化芸術推進機構」企画のパナー事業に選ばれ、写真作品《双子の椅子》が日図デザイン博物館ほか京都府内各所を巡回展示する。大澤はカメラを通して世界を覗いている。自分自身と外の世界との間に存在する壁に、直径約2cmの丸い穴を開け、密やかに覗く。そして、それら被写体は大澤によって命名され、新たな命が宿っている。



採集風景《日常採集標本箱》2018

小西秀和 Hidekazu Konishi

1979年神戸市生まれ。2002年静岡大学人文学部卒業。日常採集標本家。2018年から日常を採集(撮影や収集等)し、標本(インスタレーションや本、グッズ等)にする活動を続け、「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展/静岡」や「THE LIBRARY/京都・東京」等で発表している。Instagramで発表しているカーブミラーシリーズが、Apple公式アカウント(@apple)に掲載。本展では「だれでもカメラ部」に合流して、「壁をのぞむ眼差し」に関する採集標本を行う。



《切妻屋根の痕跡のための類型学》2018

三宅章介 Akiyoshi Miyake

1950年神戸市生まれ。1976年京都市立芸術大学美術専攻科修了。メディアアーティスト。1997年プリント21(準グランプリ)、大阪トリエンナーレ、1998年現代日本美術展、1999年京都美術工芸展(優秀賞)、京展(京展賞)、2000年さっぽろ国際版画ビエンナーレ(U氏賞)、2018-21年京都写真展、2018-23年KG+出品、2020年赤々舎から写真集「切妻屋根の痕跡のための類型学」を出版。



《記憶のための視点》2010

山口優 Yu Yamaguchi

1983年京都市生まれ。2005年から身近にあったコンパクトデジタルカメラで写真を撮りはじめ、2010年から独学でフィルムカメラを使って撮影する。2017年京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)通信教育部写真コースで写真表現を学ぶ。自己の内面と隔たりのある外側の世界との橋渡しとして写真を媒体にし、他者との関係性を模索しながら、表現活動を続けている。

2024年2月3日[土]—2月11日[日]

12:00—18:00 入場無料

休廊日:2月8日[木]

会場:ギャラリーヘプタゴン

【関連イベント】

■出品作家によるギャラリートーク

2月10日[土]13:30—15:00

会場:ギャラリーヘプタゴン



展覧会公式サイト

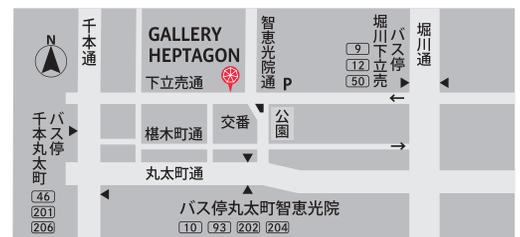
<https://sites.google.com/view/eyes-wall/home>

企画 成実憲一 Kenichi Narumi

1971年京都市生まれ。1994年静岡大学教育学部卒業。一般社団法人ヴァリアスコネクションズ理事長。アート(主に写真表現)と福祉が交差する展覧会やワークショップを多数企画。2015年から「目をつむる写真展」を企画し、2022年まで京都・静岡・滋賀で計5回開催。2017年から「だれでもカメラ部」主宰。

だれでもカメラ部 Daredemo Camera Club

障害のある人の社会参加を目的に2017年設立。2018年から障害福祉サービス事業所「ツナガリの福祉所」の活動として、利用者の写真表現をサポートしている。



- 市バス「丸太町智慧光院」下車5分・「千本丸太町」下車8分「堀川下立売」下車10分●駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。●下立売通は西行きのみ一方通行です。
- 路上駐車は近隣の迷惑になりますのでお控えください。

主催:一般社団法人ヴァリアスコネクションズ
〒606-8411 京都市左京区浄土寺東田町67番地1 ジュンビル106
TEL. 075-741-8517 FAX. 075-741-8748
MAIL. info@various-c.com WEB. <https://www.various-c.com/>

GALLERY HEPTAGON
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

〒602-8175
京都市上京区下立売通智慧光院西入中村町523
TEL/080-7583-3388 www.heptagonworks.com

